

## ● 優秀賞

# 開かれた学校をめざす情報通信ネットワークの構築

愛知県岡崎市立北中学校 森 たつし  
もり たつし  
竜師

## 1 | 主題設定の理由

本校は、これまで家庭や地域社会との一層の連携を図る中で、「開かれた学校・信頼される学校」づくりを推進し、「子供と教師の絆」を大切に、魅力あるよりよい学校を目指す特色ある教育活動の在り方を研究してきた。

その具体的な活動としては、以下のとおりである。

### ● 開かれた学校づくり

#### ① 学校新聞「北中だより」

月2回のペースで発行。各行事や部活動での子どもたちの活躍の様子や学校、生徒会活動の状況を保護者へ知らせている。各町の総代さんや学区への回覧もしており、楽しみにしていただいている。

#### ② 北中教育ネットワーク

総代・民生委員・主任児童委員・小学校の生活指導担当教員・PTA役員・北中の役職・学年主任で組織し、各学期末に開催している。意見や要望を聞くと共に、北中の子どもたちの健全育成について協議を深めている。また、学校評価もしていただいている。

#### ③ 奉仕活動

4月「PTA環境緑化委員による花壇の整備」、7月「クリーンアップ・竜北メーンロード」8月「勉強会」「親子緑化ボランティア活動」、大門、大樹寺学区各年間3回の資源回収、随時「ミニボランティア活動」(学区の要望に応じて参加)

#### ④ 夜の地域巡回

PTA活動の一環として、平成11年度より、夏休みの夜9時から学区を巡回している。自由参加であるが、延べ279人の参加があり、近年父親の参加も増えている。平成12年度からは大門学区の代表も夜間補導を実施している。

#### ⑤ 学校参観

学期ごとの授業参観と同時に学級の問題について担任と保護者の連携を取り合って解決をしていくために重要と考え、学級懇談会の充実を図っていくこととしている。

4月、6月、10月、1月 授業参観、学級懇談会、PTA総会、部活動参観

#### ⑥ 学校行事等への参加

体育大会での親子競技、文化祭でのPTAバザーや作品の出展、2年生の夜間ハイク「サンライズ・ウォーク」への参加、1年生の「地域の人から学ぶ会」「夏休み体験講座」の講師など、多くの機会に来校していただいている。特に体育大会では3000人を超える来校があり、年間延べ1万人を超える保護者や地域の方たちが来校される。運動場西側を整備し、簡単なアウトドア体験ができる「夢広場」を設置した。夏休みや休日には学級単位や部活単位で炊飯活動、バーベキュー、テント設営などが行われた。その際には、多くの保護者も参加され、子どもたちと一緒に楽しく活動している。

インターネットは双方向で情報を行き来させることのできるメディアである。それは、生徒の家庭にも急速な勢いで普及しつつある。また、学校にもインターネットの環境が整備され、利用の充実が求められている。

もともと学校と家庭の間には大きな情報交換のニーズがあり、教師と保護者の情報交換には、時間と空間の枠にとらわれないインターネットの利用は最適だと考えられる。しかし、「開かれた学校づくり」を担うための柱の1つと成り得る「情報教育」の推進は、立ち遅れているという現実があった。

そこで、これまで本校が積み上げてきていた「開かれた学校づくり」の取り組みを拡充し、インターネットを利用してすることで、より具体的で価値の高い情報発信と情報交流に一層努めるようにしていく。

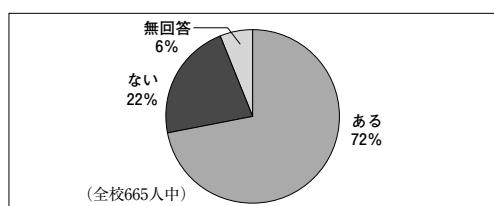
学校のホームページを情報を交流させるポータルサイトとして位置付け、インターネットの双方向性を生かしながら学校・家庭・地域との結びつきを密にすることで、家庭や地

域との連携を深めた「開かれた学校づくり」を推進していくようとする。そして、地域との連携を強め、より具体的、総合的に子どもの立場に立つ教育活動を実践して行くことができるようになり、地域の実態に即しながら学校自身が主体性を持った活気のある教育を展開していくことができるであろう。

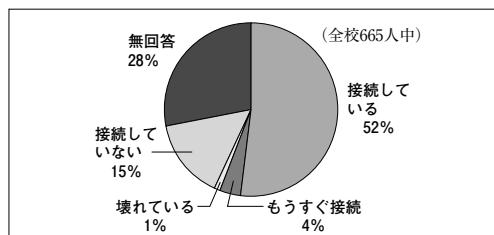
これが、本主題を設定した理由である。

## 2 アンケート調査にみる保護者の実態

昨年度のはじめに、本校に通う生徒の家庭にどの程度パソコンが普及しており、インターネットに接続できる環境が整っているのかを知るために保護者へアンケートを実施した。



●資料1／家にパソコンがありますか？



●資料2／インターネットに接続していますか？

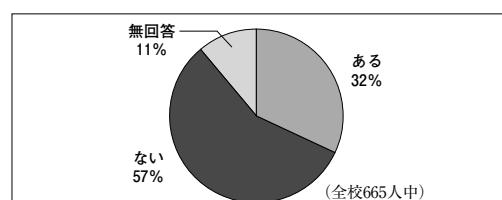
パソコンを所有している家庭は72%であり、これは決して高い数字とは言えない。さらに、インターネットに接続されている家庭は52%であり、約半数の家庭がインターネットを利用できる環境にあることがわかった。

実際にパソコンをどのような用途で利用しているかを尋ねたところ資料3のとおりであり、約45%がホームページを閲覧した経験をもっている。

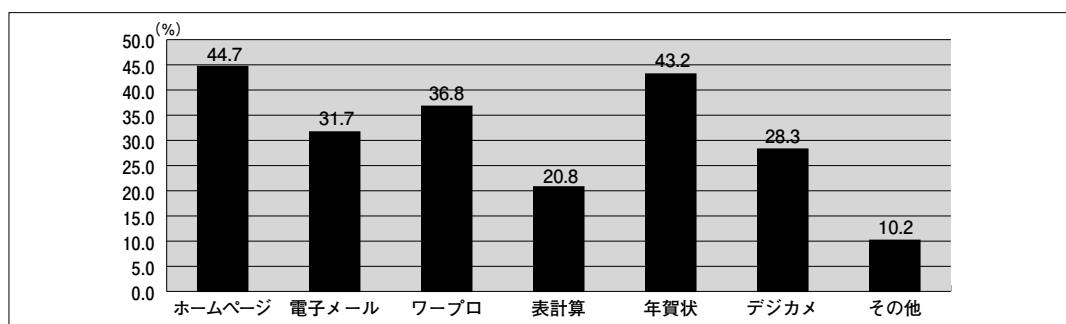
しかし、本校のホームページにアクセスした経験をもつものは、わずか全校の32%の家庭しかなかった。

本校のホームページは、数年前に公開されてからほとんど書き換えられることはなかった。いつ見ても同じ内容・古い情報が掲載されているだけであった。興味をもって一度は訪れてくれた人がいたとしても、再訪問を期待するほうが無理である。

今後、パソコンやインターネット、情報通信は間違いなく全家庭へ浸透していく。こうしたネットワーク社会の中で「学校」の存在と役割は、人々が情報を求めて集う「ポータルサイト」として、さらにコミュニケーション



●資料4／北中ホームページを見たことがある？



●資料3／パソコンを何に利用していますか（全校665人に対する割合：複数回答）

ンを求めて集う「ポータルコミュニケーションサイト」として地位を確立すべきであろう。

学校は、情報コンテンツの宝庫であり、それらを家庭・地域は求めている。また学校も、家庭や地域の声をフィードバックさせることによって連携を深め、よりよい学校づくりにつとめていく。情報ネットワークの双方向性を生かしていくことで、開かれた学校づくりを加速することができると考える。

### 3 | 研究の仮説

#### 〈仮説1〉

校内の情報を日々継続的に情報発信していくことで、閲覧価値のある情報が増え、ホームページの再訪問者が増えることで「ポータルサイト」として位置づくことができる。

#### 〈仮説2〉

校内の情報を即時的に情報発信していくことで、タイムリーな情報を提供することができ、物理的空間をこえて臨場感を味わうことができる「ポータルサイト」として位置づくことができる。

#### 〈仮説3〉

保護者・地域とのコミュニケーションできる場と環境を設定することで、双方向に情報を交換することができ、「ポータルコミュニケーションサイト」として位置づくことができる。

### 4 | 研究の手だて

ホームページは、最も手軽に情報を発信できるインターネットのサービスであり、また情報の受け手も容易な操作で情報を得ることができる。また、工夫しだいでは相互に情報を行き来させることも可能である。

そこで、これまでほとんど書き換えられることのなかった本校のホームページの充実を中心に、仮説に迫ることにした。

仮説1に迫る手だてとして、ホームページに「北中ニュース」というコーナーを設け、毎日の学校生活の中から話題を取り上げて、毎日更新していくようとする。学校行事やお知らせに偏ることなく、生徒の普段の学校生活の中からも話題を取り上げ、保護者が「我が子」の姿を关心をもって探し求めができる内容を盛り込んだ情報発信に努める。本校のホームページにアクセスした保護者が、「明日もまた見てみよう」と思う内容を充実させていくようにする。

仮説2に迫る手だてとして、学校行事や部活動の大会の結果などを、リアルタイムに情報発信していくようとする。学校に来られない方も、北中学校にインターネットでアクセスすることで、その臨場感が味わえたり、生徒の様子を窺うことができるようとする。

また、部活動の大会が行われている最中にも随時「大会結果速報」が更新されていくようになりし、本校のホームページから即座に結果がわかるようにしていく。

仮説3に迫る手だてとして、ホームページ掲示板を開設する。学校への要望・意見・考え方など、掲示板を通して学校・家庭・地域が情報交流していくことで、コミュニケーションを深める手段の1つとする。

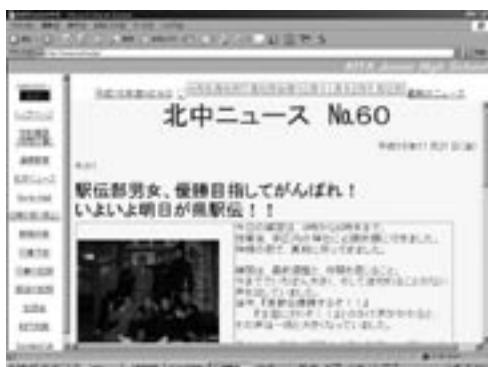
また、職員のメールアドレス公開と合わせて、保護者・生徒にもメールアドレスを配布し、電子メールによるコミュニケーション手段も生み出せる環境を整備する。

あわせて、「親子インターネット教室」を開催し、保護者を学校に招いてホームページの情報活用を啓発したり、操作や技術的なアドバイスを行ったりしていく。本校のホームページを積極的に利用してもらえるよう、保護者にも積極的に働きかけていくようとする。

## 5 | 仮説 1 にかかる実践

### (1)「北中ニュース」の立ち上げ

これまで書き換えられることのなかったホームページを全面的につくりなおす。昨年度9月より、毎日更新される「北中ニュース」のコーナーを開設した。これは、数枚の写真と文章で構成される内容で、1ページにまとめるものである。



●資料5／毎日更新される「北中ニュース」

「北中ニュース」の分担	
校長・教頭	ホームページの検閲・情報発信許可
教務	休日の北中ニュース更新
他の職員	2人ペアを組んで日直当番制でページを作成・更新

担当は、職員が2人ペアとなり日直制とした。また、校長・教頭は内容を検閲する担当とし、教務は休日に行われる部活動の大会の様子などをニュースとして発信する担当とした。

ページ内のレイアウトや取り上げる話題は、その日の担当者にまかされている。日直の職員は、朝からデジカメを片手に1日過ごし、学校生活の中から話題を取り上げて、その1コマをその日のうちにホームページに掲載していく。また、日々更新されていくため、以前のニュースも閲覧できるように「バックナンバー」としてコーナーを設け、いつでも

振り返って見ることができるようとした。

### (2)研修の場となる毎日の職員室

パソコンが扱えること、パソコンを使って授業ができるることは、今の教員には必須である。しかし、本校の職員にはそれを苦手とするものもあり、文書作成にもワープロ専用機を利用している職員もいるという現実があった。しかし、ホームページの更新が日直制で当番が来るため、嫌でもパソコンに向かわなくてはならないという状況が生まれた。

授業後に四苦八苦と頭をかかえている職員に、パソコンを扱える職員がそばへ行ってアドバイスをしたり、手順を説明したりと、いつのまにかそこには職員が集まり、毎日の授業後の職員室が「校内パソコン研修」の場となっていました。

## 6 | 仮説 2 にかかる実践

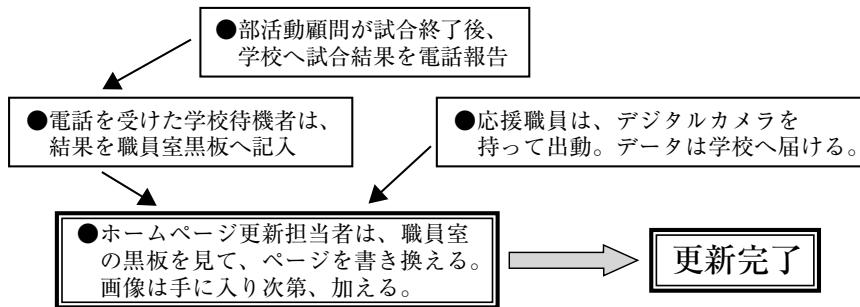
### (1)部活動結果速報の更新

運動部の保護者にとっては、大きな公式大会が行われている最中は、その予定と結果にとても関心が高い。1日中応援に行くわけにはいかない場合、1試合目の結果の状況によって、2試合目から応援にかけつける場合もある。試合結果と次の試合時間は、保護者にとって関心の的となる。

結果をできるだけ素早くホームページに掲載し、いつアクセスしても最新の状況が確認できるように情報を収集し、ホームページを更新するようにした。

ホームページ更新担当者は、事前に全ての部活動大会のトーナメント表を用意しておき、試合が終り結果連絡が入るごとに、次の試合時間・会場などもホームページに書き加えていった。

速報としてまとめられたページは、そのまま大切な部活の記録として、その後も公開を続けるようにした。



●資料6／大会中に更新される試合の結果速報

## (2)「山の学習」の様子を伝える速報

岡崎少年自然の家で行われる「山の学習」は、1年生が入学してきて始めて体験する中学校の宿泊行事である。1泊2日の日程であるが、保護者としては「自然の家でどんな生活をしているのだろう」「楽しんでいるだろうか」と想いをめぐらせ、様子が気になってしかたがないという話を聞く。

そこで、1日目の活動の様子を「速報」として、その日の夜に少年自然の家から電話回線を利用してホームページを更新し、情報を掲載することにした。

事前に生徒に連絡して、保護者に伝えておくように言っておいたため、「今日の夜、お母さんがホームページを見るって言ってたよ。私の写真をちゃんと載せておいてね。」という生徒もいた。

宿泊しているその日のうちに更新されるホームページは、1年生の保護者はもちろんのこと、2年、3年の生徒たちの関心も高く、宿泊先にいる「我が子」「後輩たち」の様子を想像しながらホームページに目を通していったようである。

## (3)緊急連絡の役割を担うページ

11月6日(木)に、2年生の「サンセットウ



●資料7／宿泊先からホームページを更新



●資料8／「サンセットウォーク」を伝えるページ

「オーク」という行事が行われた。渥美半島を約30km歩き、伊良湖岬で夕日が沈むのを見るという行事である。前日は雨が降っており、当日の天気が大変心配された。

中止の連絡は、通常は早朝に「緊急電話連絡網」で回すことになっている。しかし、天候をみながらぎりぎりまで判断を遅らせたかったために、迅速に連絡が伝達できる「ホームページ」を利用して情報を流すことにした。

2年生の担当教師は、ホームページに緊急連絡を掲載する。2年生の約半数の家庭はインターネットに接続されているため、その生徒が、学校のホームページにアクセスして最新の情報を得る。そして、インターネットに接続できない家庭（約1人対1人）へ電話連絡を入れるわけである。

伝言ゲームのように、電話を順番に回していく「緊急電話連絡網」とは違って、一度に約半数の生徒に情報が伝達できたため、スムーズに「決行」の連絡を家庭へ伝えることができた。

もちろん生徒の活動の様子は、その日のうちにホームページに公開された。

## 7 仮説3にかかわる実践

### (1)掲示板の開設

ホームページ上の掲示板は、インターネットに接続されたパソコンで表示さえできれば、

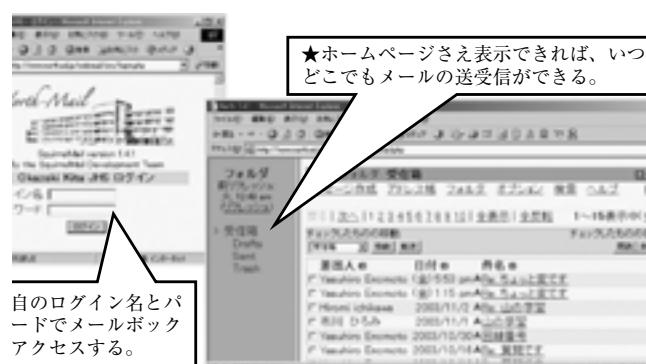


●資料9／ホームページ上に掲示板を開設

誰でもどこからでも書き込みをすることができ、コミュニケーションを図る場としては大変便利である。生徒や保護者、また本校のホームページを見ていただいた方の声を吸い上げるために、掲示板を設置することにした。

しかし、誰もが手軽に書き込める反面、こちらの意図しない内容を書き込まれたり、いたずらに意味不明な書き込みをされる心配もあった。そこで、掲示板に書き込みが行われた際には、その接続元ドメインやIPアドレスが公開され、確実にアクセスログ（どこの誰がアクセスしたのか記録されるデータ）が残るようにした。

また、1日に最低3回は掲示板の利用状況を確認し、不適切な書き込みが見られた場合には、「削除権限は北中学校にある」として削除し、適正に掲示板が運用されるように管理するようにした。



●資料10／本校独自のメール送受信システム

最も多くみられたのは、生徒の書き込みである。行事が終った後など、感動の想いが寄せられた。また、保護者からの意見や感想も書き込みが見られた。

## (2)メールアドレスの配布

北中学校では、校内のサーバと本校自主運用の専用線によって、独自にメールアドレスを発行することができる環境にある。また、Webメールシステムを採用し、本校のホームページさえ表示できる環境があれば、どこからでも自分のメールの送受信ができる。

そうした環境を有効に活用するために、全校生徒と保護者、職員にメールアドレスを配布し、利用してもらうようにした。

職員にとっては、本校に在職中のみ利用できるメールアドレスであるため、アドレスを気軽に公開できるという利点がある。そのため、ホームページ上には全職員のアドレスを公開し、先生とメールで連絡が取りたい場合には、アドレスがすぐにわかるようにした。

また、メール送受信専用ソフトを利用する事なく、ホームページを閲覧できればすぐにその場で自分のメールボックスを開けることができるため、特に難しい利用の説明をすることなく、容易に生徒や保護者にも利用してもらうことができる。

現在は、全職員と、一部の生徒・保護者が利用を始めている段階である。メールについては、利用の際のモラル指導も含めて、今後活用を広げていこうと考えているが、それでもすでに、メールによる保護者とのコミュニケーションが数件報告されている。

## (3)「親子パソコン教室」の開催

学校側がホームページを積極的に活用して情報発信していくのに合わせて、保護者にもその主旨を理解し、活用方法を知ってもらうことは重要である。

そこで、夏休みを利用して2日間にわたり



●写真1／「親子パソコン教室」の様子

「親子パソコン教室」を開催した。内容は、インターネットの基本操作から始まり、本校のホームページコンテンツの紹介と利用の仕方、インターネットを利用して学校と連絡を取る方法などについて具体的に取り上げた。

パスワード等を利用して、本校関係者しか閲覧できないコンテンツを見る方法や、電子メールや掲示板を利用して学校とコミュニケーションを取る具体的な方法など、家庭からアクセスしたときに役に立つ内容を盛り込み、身に付けてもらうことができた。

今回の「親子パソコン教室」では、28組の親子の参加を得ることができた。なによりも、こうした取り組みが行われていることが保護者や学区にも知れわたることで、関心を高めることができたようだ。本校のホームページを積極的に利用してもらえるよう、今後も保護者に積極的に働きかけていく予定である。

## 8 | 実践を支える環境整備

昨年度からホームページの充実を中心に進めてきた実践であるが、本校のホームページは昨年度9月からカウントをはじめて、本年度10月18日現在、10万2000件を越えるアクセス数となっている。

最新の情報を手軽に発信できる手順や、掲示板やメールアドレスの配布など、そうしたことの可能としているのは、計画的に設計された環境に支えられているものである。

### (1)インターネットサーバの運用

充実した情報発信は、それに詳しい1人の職員では限界がある。それぞれのコンテンツの担当者を明確にし、全員が積極的に情報発信にかかわっていく必要がある。そのためには、校内にサーバとなるパソコンを置き、各情報を構築していくなくてはならない。

そこで、本校はまず、本年度にJPNIC（日本ネットワークインフォメーションセンター）に申請をして、教育機関を示す独自ドメイン（north.ed.jp）を取得した。さらに、専用線を引いてサーバを構築し、各職員がどのようにサーバにアクセスして情報を構築し、保護者や生徒がどのように情報を引き出すのかを、計画的に設計した。

独自にメールアドレスを配布したり、アクセスログを解析しながら掲示板を管理したり、ホームページ全体を活用しやすいように設計したりできるのも、すべてこの環境のおかげである。

### (2)「北中ホームページ」の宣伝

情報の受け手がいるからこそ、発信側も意欲をもって充実した内容を提供できる。本校の取り組みが保護者や学区の方々に広く知れわたるように、宣伝活動を行った。

まず、インターネット検索サイトで最も有名な「YAHOO」へホームページアドレス



●写真2／本校のホームページを紹介する生徒

(www.north.ed.jp) の登録を行った。また、月に2回欠かさず発行されている「北中新聞」（ペーパーで本校生徒の全家庭と地域の総代など学校にかかわりをもつ家庭に配布されている学校通信）に、本校ホームページへのアドレスとアクセス方法を大きく掲載した。

さらに、文化祭の時には、本校のパソコン部が北中ホームページのコンテンツをプレゼンテーションして紹介し、その充実した内容を知らせた。文化祭当日は生徒のみならず、多くの保護者の方も来校されており、たくさんの人々に本校の取り組みを知らせることができた。

本校のホームページが、わずか1年余りの間に10万件を超えるアクセス数になり、保護者や学区の間に急速に知れわたったのも、こうした宣伝活動のたまものである。

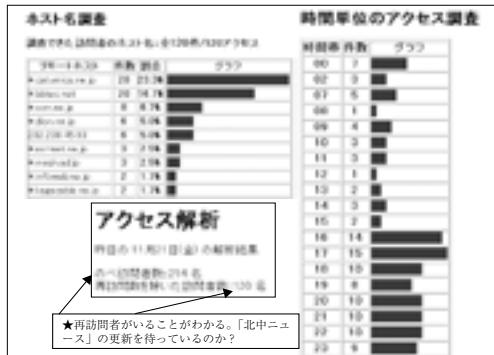
## 9 | 仮説の検証

### (1)仮説1について

昨年度9月からスタートさせた「北中ニュース」は毎日欠かさず更新され、本年度10月18日現在239号になる。生徒の具体的な姿が見える情報発信を継続的に行ってきた。

ここで、本校ホームページのアクセスログを取り上げて見てみることにする。

このアクセスログは、簡易的に集計したものである。本校のホームページには、毎日ほ



### ●資料11／11月21日(金)のアクセス状況

(同日の再訪問はカウントせず)

ほ200件近いアクセスがあるが、特に行事等の行われていない平日を取り上げてみた。

訪問者数が214件に対して、再訪問者数を除くと120件である。これは、一度アクセスした閲覧者が、もう一度時間をおいてアクセスしていることを示している。また、さらに詳しいログを解析すると、最も多く閲覧された情報の第1位は「行事の記録」、第2位は「北中ニュース」、第3位は「北中ニュースバックナンバー」であった。

これらのことから確実に本校のホームページを訪れる人は増えており、日々更新される情報を繰り返し閲覧したくなる価値あるサイトとして認識されつつあることが感じられた。

### (2)仮説 2 について

校内の情報を即時的に発信し、求められている情報をタイムリーに提供していくために、部活動の結果や山の学習などの行事のときは1分1秒でも早く情報を集め、ホームページに公開してきた。

10月4日から5日にかけて行われた「運動部新人戦」の昼間や、学校行事が行われた夜には、ホームページへのアクセス数が必ず増すことから、その関心の高さを感じ取ることができた。

保護者からの反応は、普段顔を合わせたときの話題にもっとも多く現れているが、ここでは保護者からホームページの掲示板に書き

込まれた1件の内容を示す。

「山の学習」の様子が、宿泊しているその日のうちにホームページに載ると聞いた保護者が、きっと家からアクセスしてページを見たのであろう。感謝の意を感じ取ることができる。このことからも、即時的に情報発信していくことで、城北ホームページが価値あるサイトとして認識されつつあることを確認することができた。

### (3)仮説 3 について

学校から一方的な情報発信を行うのではなく、インターネットの双方向性を生かして保護者や地域の声をフィードバックさせること。また、ポータルコミュニケーションサイトとして人々が集う場とすることを目指してきた。そうした姿は、ホームページの掲示板の書き込みに顕著にあらわれている。

また、行事が終った後などには生徒の書き込みも多くされている。

インターネットの掲示板だからこそ、気軽に書き込みができるという面がある。しかし、これは直接会って関わることを避けたり、希薄になっているのではなく、インターネットを通したコミュニケーションが新たな手段の1つとなり得ていることを示している。掲示板の書き込みが示すように、時間や物理的な空間にとらわれることなく、学校・家庭・地域が双方向に意見を交換できる場があることで、城北ホームページが価値あるコミュニケーションサイトとして認識されつつあることを感じ取ることができた。

## 10| 成果と今後の課題

以上のことから、継続的・即時的な情報発信と、双方向性を生かした場を設定することで、「ポータルコミュニケーションサイト」の地位を確立しつつあることが確かめられた。

そして、このことは、「開かれた学校づくり

おつかれさまでした。

投稿日 2003年11月10日(月)01時42分 投稿者 1年の親より [REDACTED] meshad.jp] □削除

山の学習、生徒も先生もおつかれさまでした。子どもは疲れた顔をして帰ってきましたが、辛かったことも楽しかったことも、思い出としていろいろ話をしてくれました。なによりも、山に出かけたその日の夜にホームページに様子が出ていて、驚きとともに子どもの活動の様子がよくわかり、有難く思いました。  
(でも、どうやってホームページに載せているのでしょうか？)  
北中のホームページは、毎日楽しみに見ています。今後も頑張ってください！

●掲示板への書き込みの内容

ありがとうございました

投稿日 2003年8月30日(土)11時58分 投稿者 香村母 [REDACTED] us.catvmlcs.ne.jp] □削除

この夏、我が家でパソコンを購入したのですが  
全くの初心者で、どうしようかと考えていたところに  
教室の開講を知り、嬉しく思っています。今回は残念ながら行く事が  
出来ませんでしたが、おおいに活用していきたいと思っています。

●「親子パソコン教室」開催に対する保護者の反応

北中。

投稿日 2003年9月19日(金)21時38分 投稿者 豊羅奏愛 [REDACTED] catvmlcs.ne.jp] □削除

始めましてv私は北中生徒の一人です。  
明日は体育大会本番で緊張します。  
こうして北中の事がネットを通じてわかるので私の母は感動してましたv  
私も今日、どんな事が書かれているのか楽しみです。  
では乱文失礼しました。毎日ここにきます！！！！

●ホームページ開設当初の生徒の反応

いよいよ新人戦

投稿日 2003年10月4日(土)22時19分 投稿者 北の娘 [REDACTED] so-net.ne.jp] □削除

こんばんは。  
いよいよ新人戦はじめましたね。  
今日は、サッカー部の応援に、皆で張り切って行きました。  
惜しくも、二回戦で敗れてしましましたが、本当に良いプレーを見せてもらいました。確実に強くなっている。  
いつも、貴方達の頑張る姿をみていると、心の底から「ありがとう」  
を言いたくなります。ほんとうに、一生懸命に闘っている。  
残念な結果には、なりましたが、この悔しさをバネにして、もっともっと  
強くなってください。君達なら絶対できます！！  
応援していますよ。

●部活動新人戦に対して、保護者から生徒へ激励の言葉

懐かしいなあ

投稿日 2003年10月22日(木)23時02分 投稿者 OB [REDACTED] kanagawa.ocn.ne.jp] □削除

13年前に北中に入学しました。写真の制服やジャージを見て懐かしい気持ちがしました。当時1年の時の担任だった[REDACTED]先生は本当にいい先生でした。ホームページを見ていて当時のことが鮮明に思い出されました。  
今思えばかなり個性の強かった先生方ばかりでしたが、まだ新しかった北中をみんなで盛り上げていこうという熱気に満ちあふれていました。

●卒業生が北中学校のホームページを訪れて書き込みをした例

サンセットウォーク無事成功！！

投稿日 2003年11月6日(木)22時14分 投稿者 (けーけーじえい) [REDACTED] aichiocn.ne.jp] □削除

今日、雨が降ると思ってたけどお……。  
それが降らなかったんだな！！！ヤッター！！  
みんな無事に事故もなく伊良湖岬に着いた。  
サンセットウォークは、長くもつらく、友達と話して短くも感じた  
30kmという道のりだったなあ～～！！  
最後の1～2kmのところで海が見えたときは感動だった！！  
伊良湖岬に着き、保護者の方々に作っていただいた豚汁を舌鼓して(ものすごく  
おいしかった!!!!)  
その後、砂浜にいって波と遊んでた。靴が濡れた人もいた！！  
そして、サンセットだ。  
でも、曇っててサンセットは見れなかったあ……残念！！！  
僕は30kmという道のりをみんなが無事にたどり着いたことが大事だと思う。  
これで、俺たち北中2学年全員は……「伝説の学年」となったのである！！！！！！！！！！

●行事が行われた後、生徒の書き込みの例

り」を推進し、地域との連携を強め、より具体的、総合的に子どもの立場に立つ教育活動を実践していく力になるものと確信する。地域の実態に即しながら、学校自身が主体性をもった活気ある教育を展開していくことができる原動力となるであろう。

実践はまだ継続段階ではあるが、最後にこれまでの取り組みの過程で浮かびあがった問題点をあげてみる。

●インターネットが家庭に広く普及してきたとはいえる、インターネットに接続できる環境がない家庭も存在する。そうした家庭への配慮と手立てが今後一層必要である。

「親子パソコン教室」を開催するなど、保護者への啓発はしているものの、研究はインターネットを利用することを前提としているため、インターネットに接続されていない家庭は、ホームページのコンテンツを利用することができない状態のまま過ぎている。

今後は一層の啓発に加えて、普及率の高い「携帯電話」で情報の閲覧ができる工夫を加え、より広く情報交流できるようにしていきたいと考えている。

●生徒の姿がよりよくわかる情報発信につとめていく反面、「個人情報の保護」など危険から守らなければならないこともあります。地域や保護者の要求を満たすことができない場合もあった。

本校のホームページ内には、校内のみ閲覧可能である部分もあり、校外から閲覧するためにはパスワードを要求される。卒業生や地域の方から「パスワードを教えてほしい」という問い合わせもあるが、相手が確認できないかぎり、パスワードは公開しないようにしている。本校が意図しないサイトにリンクを貼られたり、悪意のある者からの攻撃も今後考えられる。これらの問題点の解決を探りながら、一層「開かれた学校をめざす情報通信ネットワークの構築」を深化させていきたい。